葉っぱは見えるが、根っこは見えない

変わるものと変わらないもの

高久　多美男　　by不純斎

※こだわるのは本質の部分だけでいい：禅語から学ぼう！

水急不流月：みずきゅうにしてつきをながさず

月流不急水

○昔、瀬戸内海を見た中国人が『日本にも大きな河があるんですね！』と言ったとか・・・

揚子江ほどの河は無いにしても、日本の河川は流れが急で濁りも無く、昔から人生訓の例えとしてよく登場します。

○右図の言葉は、『どんなに水の流れが急であっても、水面に映る月を流すことは出来ない』と言うことを言っています。

転じて、私達が生きているこの時代は、絶えず変化にさらされています。ともすると、その変化の波に流されそうになる。しかし、本来の自分、とらわれない心は、決して流されることは無いという意味になります。

八風吹不動：はっぷうふけどもどうぜず

八風吹不動天辺月

○後段に**天辺月**（てっぺんのつき）と続きますが禅語の**不動心**と似た言葉です。

○八風とは次の八つの事柄を示します。

四順（しじゅん）⇒こういう風が吹いてくれればと言う煩悩心
①利（りこ）　　：自己の利欲にとらわれ、自分だけはと願う心
②誉（ほまれ）　：名聞名誉にとらわれ、誉められたいと願う心
③称（たたえ）　：人々から称賛されたいと、願う心
④楽（たのしみ）：享楽にふけり、楽したいと願う心

四違（しい）　　⇒こういう風が吹かないでくれればと願う煩悩心
⑤衰（おとろえ）：気力、活力の衰え、人生の衰えた姿
⑥毀（けなし）　：他の人から批判され、けなされる姿
⑦譏（そしり）　：他の人から、そしられる姿
⑧苦（くるしみ）：人生の苦難、苦境にさらされる姿

○意味としては次の様になります。人生には八風が吹いている、自分を見失いそうになった時、天の月の視点から覚めた目で眺めれば、出来事を冷静に受け止められる。転じて、心が揺れるのは仕方ないが、揺れたままでは自己の精神がない。揺れた心を元の位置に戻すことが肝要である。